

「是旃陀羅」問題に関する 教区学習会

2023年5月に本山より学習冊子『是旃陀羅について』が発刊され、続いて2024年1月に是旃陀羅問題学習テキスト『御同朋を生きる』が発刊されました。宗門では「全宗門的課題」として僧侶のみならず、門徒の方々とも当問題を共有し、このテキストを用いて学ぶことを願われております。

現在、名古屋教区では毎年「是旃陀羅」問題に関する学習会を開催し、昨年度は名和達宣氏(教学研究所所員)をお招きして「『御同朋を生きる』の要点と課題」について、お話をいただきました。しかし、テキストをまだ手に取っていない、あるいは通読できていないという方も少なくないのが現状です。今年度は下記講題のもとお話をいただき、より多くの皆様と一緒に学習テキストを通して学ぶ機縁になることを願い、学習会を開催いたします。

日 時 2026年2月3日(火) 16時~19時(受付15時30分)

場 所 名古屋教務所 議事堂

講 師 阪本 仁氏(解放運動推進本部本部委員)

講 題 学習テキスト『御同朋を生きる』発刊の願い

参加費 無料

※学習テキスト『御同朋を生きる』を
お持ちになってご参加ください

※教師陞補の為の聴講証発行対象研修

申 込 裏面をご参照ください



お持ちで無い方は当日、
無償で配布いたします

王舎城の出来事は、韋堤希自身が生きてきた自らの凡夫性をあらわにする出来事であったのであり、『観経』は、そうした救われ難い「凡愚^{ぼんぐ}底下^{ていげ}の罪人^{つみびと}」の自覚の徹底において阿弥陀仏の浄土を願う存在として(「部落差別問題等に関する教学委員会 報告書」より)救われていく道が語られている。差別社会によって「是旃陀羅」とはじしめられた阿闍世王は、かろうじて殺人を思いとどまる。しかし、徹底した差別社会における凡愚低下の人である「旃陀羅」の救われていく道は語られていない。

(1) 私たちは、「是旃陀羅」問題と真宗の関わりの歴史を直視し、その罪責に向き合っていかなければならない。

(2) 『観経』における「是旃陀羅」問題についての学びを進めるとともに、そのことを通して『観経』をあらためて受け止め直していかなければならない。

(3) 同朋会運動推進において掲げられている「人の誕生」と「場の創造」は、差別問題への取り組みと別にあってはならない。僧侶・門徒における「是旃陀羅」問題に関する学びを具体的に進めていかなければならない。

(4) 『観経』の読誦について「痛みを感じる」という声を真摯に受け止め、読誦の問題についても検討しなければならない。

部落差別問題等に関する教学委員会 報告書
「是旃陀羅」に関する提言 より

日 程

15:30 受付開始
16:00 開会・真宗宗歌・挨拶
16:10 講義
17:30 休憩・移動
17:40 班別座談
18:30 質疑応答
18:50 ふりかえりシート記入
19:00 閉会・恩徳讃

申込み・お問い合わせ

どなたでもご参加いただけます。

電話・FAX・メール・Googleフォーム(QRコード)にて
2026年1月30日(金)までにお申し込みください。

〒460-0016 名古屋市中区橘2丁目8-55
TEL 052-331-2468 FAX 052-321-5845
mail kawamoto_toshifumi@higashihonganji.or.jp

Googleフォーム



真宗大谷派名古屋教務所
担当 河本

出席連絡 (FAX・直接提出用)

第____組_____寺・教会 氏名_____